

第6回 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会

議事概要

1. 日 時：平成27年3月30日（月）15:00～17:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

有川（座長）、安達（副座長）、谷藤、恒松、林、村山の各構成員、原山総合科学技術・イノベーション会議議員

（オブザーバー）文部科学省 榎本参事官（情報担当）、長澤学術基盤整備室長、西川地球観測推進専門官、経済産業省 武藤国際室長、日本学術振興会 渡邊理事、科学技術振興機構 大竹理事

（事務局）森本政策統括官、中西審議官、中川審議官、匂坂参事官、真子補佐、須田補佐

1. 議事

（1）事務局説明

事務局より、報告書（案）について説明があった。

（2）主な意見等

事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

（フォローアップ等の今後の実施体制及び課題について）

- 報告書が完成した次のフェーズにおいて、これをもとに引き続き、国内外機関関係者とも議論を重ねていく必要がある。
- 報告書で示した内容を確実に推進していくためには、内閣府及びCSTIにおいてフォローアップのあり方や今後の検討課題を継続的に検討するワーキンググループや各ステークホルダーが提言できる場を設けておく必要があるのではないか。
- 国内の情勢ばかりでなく国際情勢を踏まえてオープンサイエンスを推進する必要があることから、世界情勢を常に把握するとともに、諸外国との連携等についても検討していくべきである。
- 次のフェーズを進めていくには、フォローアップの具体化が必要であり、オープンサイエ

ンスを推進する組織や研究分野の特性を意識した議論が必要ではないか。

- 資金配分機関が横断的に議論できる場でオープンサイエンスが取り上げられるとよい。
- サイエンスのあり方が変わるという点については、研究者の理解を深めていく必要があり、CSTIや日本学術会議において、引き続きオープンサイエンスを推進する重要性を発信する場があるといよい。
- オープンサイエンスを推進するにあたって、オープンアクセスを各機関が取り組むにはどれくらい経費必要かなどの国際的な比較や、グリーンやゴールドオープンアクセスの比率など、政策の効果が高まるよう情報の収集や分析を行うことも必要ではないか。
- 関係省庁や関係機関においては、本検討会のこれまでの議論を踏まえ、検討を開始するなどの動きもあり、引き続き、内閣府及びCSTIで、情報収集を行うとともに、情報の共有に努めてほしい。